



4月17日に本校6年生を対象に実施した「全国学力調査」についての結果がまとまりました。本調査は、国語・算数・理科のテストと同時に、家庭での過ごし方や学習時間を問う調査も実施されており、その結果の概要と本校の児童の状況をお伝えします。

総合結果（国語・算数・理科）

本校の平均正答率は、国語、理科ともに全国平均を上回りました。特に理科は +3P 上回る結果となりました。算数に関しては、全国平均とほぼ同等の正答率でした。どの教科でも、基礎学力が定着していることが伺えます。



国語科より



全国の平均点を上回りました。特に差が大きかったのが、「目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見つける問題」や「自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉える問題」でした。「読む」内容の問題に関しては、抵抗なく問題と向き合うことができています。日々の取組の姿勢がそのまま正答率の高さとなって表れています。さらに、「話すこと・聞く」内容の問題でも高い正答率を得ました。

その一方で、「書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落を作ったり、段落相互の関係に注意したりして文章の構成を考える問題」は、全国平均を下回っていました。これは、「書く」内容の問題です。また、「図表などを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する問題」も差が大きかったです。これからは今まで以上に、段落を意識したり、目的に応じて図表などを用いたりして文章を「書く」ことができるように働きかけていきたいです。

算数科より



全国の平均点とほぼ同等の正答率でした。その中でも、大きく上回っていたのは「数と計算」の領域です。「棒グラフから、項目間の関係を読み取る問題」や「示された資料から、必要な情報を選び、数量の関係を式に表し、計算する問題」は5P以上上回っていました。「小数の加法の計算の問題」や「異分母の分数の加法の計算の問題」でも平均を上回る結果となりました。日頃からの積み重ねが、子どもたちの力を育むということを再認識しました。

その一方で、「図形」の領域に関しては、平均点を下回る結果となりました。特に、「台形の性質についての問題」や「角の大きさについての問題」は、平均点との差が大きかったです。また、「変化と関係」、「データ活用」の領域に関しても大きく下回りました。この実態を踏まえて、「数量の関係に着目して、必要な数量を見いだす問題」をチャレンジタイムや宿題等で、もう一度取り上げて、復習をしていきたいと思っています。

理科より



全国の平均点を3P上回りました。3教科の中で1番平均点との差が大きい結果となりました。普段の理科の授業を、関心深く、主体的に学習に取り組んでくれていることが伺えます。その中でも、大きく上回っていたのは「生命」を柱とする領域です。「花のつくりや受粉についての問題」や「顕微鏡を操作し、適切な像にするための技能の問題」は7P以上上回っていました。実験や観察を行うためのスキルを身に付けてくれています。また、「水の結露」や「水と氷の関係」の問題の「粒子」を柱とする領域でも高いポイントを示しています。日常生活から物事を理科の視点で捉えることができています。

一方で、「思考・判断・表現」の観点の問題では、平均点を下回る領域が多い結果となりました。今までよりもさらに、思考を広げたり、深めたりできるような授業を構築していきたいと思っています。

児童質問紙調査から



Q 困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか？

この質問に対して、「当てはまる。」と答えた児童の比率が非常に高い傾向にあります。子どもたちと大人の繋がりを感ずることが出来ます。さらに学校と家庭、地域の繋がりを大切にしたい、子どもたちとの信頼関係を築いていきたいと思っています。

Q 友達関係に満足していますか？

この質問に対して、「当てはまる。」「どちらかといえば当てはまる。」と答えた児童の比率が94%でした。これからも子どもたちが、安心をして学校生活が送れるように見守ってきたいと思います。



保護者の皆様へ

全国調査は、子どもたちの学習状況を知り、子どもたちの可能性をさらに伸ばし、課題を解決していくためのものです。結果が学力の全てを表しているのではなく、順位を競うものでもありません。

学力は、学校・家庭・地域での地道な積み重ねにより定着していくものであり、望ましい生活習慣や日々の学習習慣がその基盤となります。子どもが自己の将来の生き方を見据え、学校での学びと社会とのつながりや、わかる喜びと学び合う楽しさを実感できる授業を目指し、常に効果的な指導方法や指導体制の工夫改善を図るとともに、すべての児童の可能性を最大限に伸ばす視点を大切に、今後も取組を進めてまいります。さらに、ご家庭と連携して進めていきますよう、励ましの声かけなどをお願いいたします。引き続き、ご家庭での子どもに対する積極的で温かな関わりや指導・支援をよろしくお願いいたします。